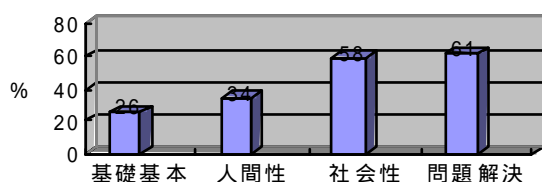


自己効力間を高める体験活動の特徴

アンケートの実践例の中から、特に強い達成感につながった体験活動について集計・分析し、自己効力感を高める体験活動の特徴を探る。

ア ねらいと効力間の関係

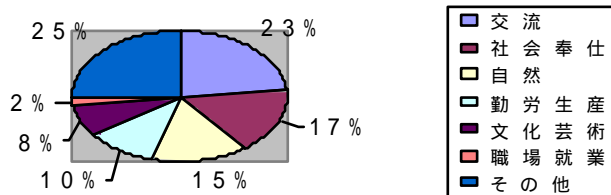
各ねらいをもった体験が自己効力感を高める割合



問題解決力の育成を図る活動と**社会性**の育成を図る活動の半数以上が、強い自己効力感につながっていることから、自己効力感を高めるためには、この二つのねらいをもった活動を行うことが望ましいと考える。

イ 内容と効力間の関係

自己効力感を高める体験の内容別割合

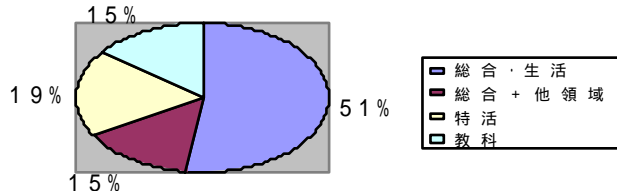


交流にかかわる活動（特に4年）、**社会奉仕**にかかわる活動（特に5・3・6年）、**自然**にかかわる活動（特に5年）が多い。

自然にかかわる活動の50%が強い自己効力感につながっている。

ウ 領域区分と効力感の関係

自己効力感を高める体験の領域別割合

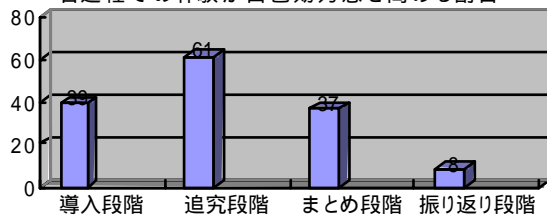


総合的な学習の時間（含む生活科）や**総合的な学習の時間と他領域を連携**させたものが多い。

特別活動を中心とした体験全体の90%が強い自己効力感につながっている。

エ 学習過程と効力感の関係

各過程での体験が自己効力感を高める割合

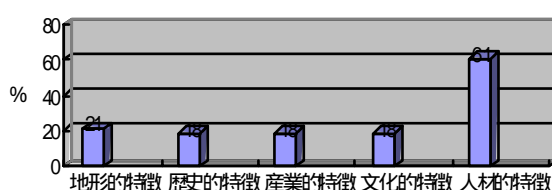


達成感とは、活動の結果に対する評価によって得られるという面を持っている。**追究段階**の体験により、課題に合致した解答が得られたとき、困難にめげず活動を成し遂げたとき強い自己効力感につながっている。

一方、ふりかえり段階の活動が少ないことから、子どもたちの**ふりかえりに関して工夫し、充実させる**必要がある。

オ 地域連携と効力感の関係

地域の各特徴を活用した体験が自己効力感を高める割合



外部講師・学習ボランティア・取材対象・交流対象などとして様々な内容・方法・段階で**人材を活用**している。具体的には、家族（祖父母）・地域の人・関係諸団体の人・専門的な知識や技能を有した人などである。

